



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## 金融教育における小中高等学校の連携と授業後の実践意識に関する研究

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2022-08-19<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 石津, みどり, 菊地, 英明, 西岡, 里奈<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/2309/00174335">http://hdl.handle.net/2309/00174335</a>                               |

# 金融教育における小中高等学校の連携と授業後の実践意識に関する研究

東京学芸大学附属小金井中学校 石 津 みどり  
東京学芸大学附属国際中等教育学校 菊 地 英 明  
東京学芸大学附属小金井小学校 西 岡 里 奈

## 目 次

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| 1. 研究の目的                     | 106 |
| 2. 研究計画                      | 106 |
| 3. 小学校での学習（消費と契約）            | 106 |
| 3. 1. 題材の目標                  | 106 |
| 3. 2. 指導計画                   | 106 |
| 4. 中学校での授業実践                 | 107 |
| 4. 1. 家庭科における家庭経済（キャッシュレス活用） | 107 |
| 4. 2. 単元展開の概要                | 107 |
| 4. 2. 1. 指導計画                | 107 |
| 4. 2. 2. 授業後のアンケート           | 108 |
| 5. 高等学校での学習                  | 109 |
| 5. 1. 単元展開の概要                | 109 |
| 5. 2. 指導計画                   | 110 |
| 6. まとめと考察                    | 110 |
| 6. 1. 小・中・高等学校の学習            | 110 |
| 6. 2. 成果と課題                  | 110 |
| 6. 3. おわりに                   | 110 |

# 金融教育における小中高等学校の連携と授業後の実践意識に関する研究

東京学芸大学附属小金井中学校 石津 みどり  
東京学芸大学附属国際中等教育学校 菊地 英明  
東京学芸大学附属小金井小学校 西岡 里奈

## 1. 研究の目的

兼ねてから、消費者教育について実践を重ねてきたが、近年消費税増税に合わせたポイント還元事業や2020年9月からのマイナポイント事業について理解を深めるとともに、日常の消費生活に関心を払う意識を持たせた。そのために、技術・家庭科（家庭分野）の「D身近な消費生活と環境」の「よりよい消費生活のために」という単元等で取り扱う。小学生の時に学んだ、消費することと契約することを基礎に、中学校でクレジットなどのお金の流れと社会の仕組みについて学ぶ。消費者が知らないままでいることに視点を当て、生活を豊かにすることを願って授業を計画する。授業後にためになったのかどうかをアンケートして、その分析と成果を学校紀要に掲載して内外に広める。小学校での学びの基礎の上に成り立ち、高等学校へも繋げていく内容なので、家庭科教育での充実を図るためにも、小中高等学校が連携して研究する。

## 2. 研究計画

・4～10月 授業の考案と実践

小学校・高等学校での指導内容を整理し、小中高の一貫した学びを研究

・6月と7月に消費生活の授業実践

・11月～12月アンケート実施、理解できたかためになったかどうか実践できたか

## 3. 小学校での学習（消費と契約）

### 3. 1. 題材の目標

○買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な買物の仕方について理解することができる。

【知識及び技能】

○物や金銭の計画的な使い方と適切な買物について課題を見つけ、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりする。

【思考力、判断力、表現力等】

○情報を収集・整理し、よりよい物を選ぼうと主体的に考えようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

### 3. 2. 指導計画

|   | 小題材名                | ねらい   | 時数  |
|---|---------------------|---|-----|
| 1 | どんなところにお金が使われているだろう | ・家庭生活の中で、お金を支払っているものやサービス（支出）と家庭に入ってくるお金（収入）を理解し、家族の労働によって得られる限られた金銭を大切に計画的に使用する意識を高める。     | 1時間 |
| 2 | お金の使い方を考えよう         | ・買物で困った場面を共有し、ロールプレイングのシナリオ作りを通して、買物の仕組みを理解し、消費者としての役割に気付けるようにする。                           | 1時間 |
| 3 | 品物の選び方を考えよう         | ・調理実習の材料を買いに来た場面を想定して、店頭での品物の選び方を考える。生鮮食品や加工食品など、様々な食品から購入に必要な情報を読みとり、工夫して品物を選ぶことができるようにする。 | 2時間 |

## 4. 中学校での授業実践

### 4. 1. 家庭科における家庭経済（キャッシュレス活用）

中学校家庭科の新学習指導要領には、消費者教育の大切さが反映され、中学校家庭科での三者間契約について学ぶこととなった。中学生はまだ三者間契約を生活上必要とされてはいなかったが、社会情勢の変化に伴い、キャッシュレスの生活を余儀なくされる。賢い消費者としても賢い消費者生活をしていくことを意識しながら学び、生活していくことが望まれる。まずは契約について、そして三者間契約の仕組みを知り、クレジットカードやリスクについて学ぶ。

さらに2019年10月から消費税が10%になることで、店舗や企業の顧客へのサービスが増えているので、リスクを最小限にキャッシュレスを生活に取り入れるチャンスである。安全性を重視した現金のみの使用も否めないが、確かな知識とリスクを知るすべを持ち、今の社会を賢く営んでいくための生きる力を養いたい。

- 目標
- ・契約やクレジットの仕組みを知り、リスクを考える。
  - ・キャッシュレス普及の必要性和その背景を理解する。
  - ・お金に関わる情報を自分でキャッチする必要があることに気づく。

### 4. 2. 単元展開の概要

家庭科家庭経営として学ばなければならない3者間契約とクレジットのしくみを知り、キャッシュレス化のことを学んできた。消費税率の変化に伴い、消費者はいかに支払い金額を少なくするかを考える。

はじめに生徒たちが知っている情報や考えを共有し、そこにあるリスクについて学び、次に消費税増税時に9か月間行われたポイント還元事業の仕組みを知る。賢い消費者として生活するためには、自ら知識を得ていかなければ、情報弱者になってしまうことを理解する。最後に、10月からの新制度について、対象ごとの消費税率やポイント還元の仕組みと生徒の現状を聞き、その後の生活における工夫などについて、どのように考えるか情報を共有する。

#### 4. 2. 1. 指導計画

- 1 契約について（販売と購入・リスク他）
- 2 キャッシュレス化と消費税増税とポイント還元事業（表1）
- 3 ポイント還元事業のリスクとその後（表2）

表1 指導案① 授業の展開（1時間）

|           | 学習内容  | 生徒の学習活動   | 教師の支援他（☆生徒の発言）  |
|-----------|---|---|---|
| 導入<br>5分  | ・消費者教育である契約やクレジットの授業を覚えているかを聞く。授業では、皆がキャッシュレスより現金が良いと話していたことを伝える。 | ・クレジットの授業内容を思い出し、クレジットの授業後に、どんなことについて気を付けているかを発表する。     | ・考えたことを自由に言える雰囲気です授業をすすめる。<br>・授業プリントや資料を準備する。<br>・授業の流れがわかるような板書をする。 |
| 展開<br>35分 | ・現在、個々にクレジットやキャッシュレスについて、知っていることや考えていることを話し合う。                    | ・自分の知っていることや考えをワークシートに記入し、グループで発表する。情報をワークシートにまとめ、共有する。 | ・個人の考えを整理してから班で話し合う。<br>・内閣や消費者庁の正式発表とSNSやメディアの情報を分けて考え、整理する。         |
|           | キャッシュレス払いについて考えよう   |   |   |
|           | ・班での話し合いの内容をワークシートに記入し、1グループ8人で考えを共有する。グループの発表時は皆がわかるように説明する。     | ・正式に決まっていること、メディア等で知ったこと、自分はキャッシュレスで支払うかなどを班で共有する。      | ☆家族にやってもらいたい。<br>☆ポイント還元の意味が分からないから使えない。<br>☆お財布の現金しか把握できない。          |

|            |   |   |   |
|------------|---|---|---|
| 展開<br>35分  | (5つに分かれる。1・2班, 3・4班, 8・5班, 6・7班, 9・10班で話し合う)  | ・消費者として考え, 情報は最新なものを常に調べなければならないことを確認する。  | ☆そんなに支払う金額が違うの?<br>☆現金だと損しちゃう。<br>☆難しい, 安全で簡単なのは? どうすればいいの?                               |
| まとめ<br>10分 | ・グループの8人で話し合ったことを整理して, 発表する。<br>・10月からの新制度について, 対象ごとの消費税率やポイント還元の仕事と現状を学ぶ。<br>・社会の一員として情報を集めるためにニュースはチェックしよう。 | ・各班の発表を聞いて, 自分の考えを整理してワークシートに記入する。<br>・グループの8人で話し合ったことを整理して発表し, 全体で共有する。<br>・時間があれば感想を発表する。 | ・生活における課題として, キャッシュレスなど, 新しいことが急速に進んでいく。<br>・情報弱者にならないような心構えと賢い消費者として生活するための「生きる力」を身につける。 |

表2 指導案② 授業の展開 (1時間)

|                      | 学習内容   | 生徒の学習活動  | 教師の支援他<br>(☆予想される生徒の発言)  |
|----------------------|--|--|--|
| 導入<br>5分             | ・消費者教育である契約やクレジットの授業をおさらいする。   | ・覚えていること, 大事だと思ったことを発表する。  | ・クレジットやキャッシュレスの授業資料を提示する。  |
| 展開<br>35分            | ・ポイント還元を受けたかどうか情報を共有する。<br>・キャッシュレスについて, 知っていることや考えていることを話し合う。   | ・自分のことや考えをワークシートに記入し, グループで発表する。情報をワークシートにまとめ, 共有する。   | ・個人の考えを整理してから班で話し合う。<br>・内閣や消費者庁の新しい情報を参考にする。(資料として配布または, タブレットPCを班に一台用意する)。                                       |
| 今後のキャッシュレス払いについて考えよう |  |  |  |
|                      | ・班での話し合いの内容をワークシートに記入し, 1グループ8人で考えを共有する。グループの発表時は皆がわかるように説明する。<br>(5つに分かれる。1・2班, 3・4班, 8・5班, 6・7班, 9・10班で話し合う) | ・資料などからわかったこと, 自分で調べたこと, 自分だったらキャッシュレスで支払うかなど, それぞれの考えを班で共有する。<br>・消費者として考え, 情報は最新なものを常に調べなければならないことを確認する。 | ☆興味がなくてキャッシュレスしてない。<br>☆家族が協力してくれなかったからできなかった。<br>☆やはり, ポイント還元がわからなかった。<br>☆面倒だから, 現金しかつかわない。<br>☆難しい。<br>☆考えるのも嫌。 |
| まとめ<br>10分           | ・グループの8人で話し合ったことを整理して, 発表する。<br>・10月からの新制度について, 対象ごとの消費税率やポイント還元の仕事と現状を学ぶ。<br>・社会の一員として情報を集めるためにニュースはチェックしよう。  | ・各班の発表を聞いて, 自分の考えを整理してワークシートに記入する。<br>・グループの8人で話し合ったことを整理して発表し, 全体で共有する。<br>・時間があれば感想を発表する。                | ・消費税増税をしたのに, それに関わり経費のような支出が大きくなり, 果たして増税の意味をなしていたのかどうかまで, 生徒に考えさせることができるだろうか。<br>・賢い消費者として生活するための「生きる力」を身につける。    |

#### 4. 2. 2. 授業後のアンケート

授業後に Microsoft teams を活用したオンラインでの簡単なアンケート調査を中学2年生対象に行った。調査内容は表3の質問内容で図1のように, 139名中107名の回答があった。

表3

|  |
|--|
| <p>家庭科のアンケートです。2年生全員が答えてください。</p> <p>ポイント還元などの消費者教育の授業を受けてあなたはどう思いましたか。</p> <p>(1) ポイント還元のことを知っていたので, コンビニはスイカで支払うなど工夫していた。</p> <p>(2) ポイント還元などの情報を知っていたら, 生活に活かしたい。(自分もやりたい)</p> <p>(3) ポイント還元のような情報を知っていたら, 家族に話したらよいと思った。<br/>(自分はしないけど家族がするかもしれないと思う)</p> <p>(4) ポイント還元のような情報を知るのには良いが, 何もしない。</p> <p>(5) ポイント還元のような情報に興味がない。</p> <p>(6) その他</p> |
|--|



図1 アンケートの結果 (teams の画面)

## 5. 高等学校での学習

平成30年6月の民法の改正により、令和4年度から成年年齢が18歳に引き下げられ、令和2年度以降の高等学校入学生は第3学年で成年となる。18歳から一人で有効な契約をすることができるようになる一方、保護者の同意を得ずに締結した契約を取り消すことができる年齢が18歳未満までとなることから、自主的かつ合理的に社会の一員として行動する自立した消費者の育成のため、また、若年者の消費者被害の防止・救済のためにも、こうした消費生活に関わる内容についてより一層の指導の充実が求められる。

今回はそれらの内容のうち、特に中学校でも扱うこととなった三者間契約であるクレジットカードについてとりあげる。これまで20歳を迎えるまでは保護者の同意が必要であったクレジットカードの作成が成年年齢の引き下げによって高校3年生の年齢でも自らの意思のみで作成することが可能となっていくことから高等学校で扱うことがますます重要性を帯びてくると考えられる。

### 5. 1. 単元展開の概要

以下の内容について学ぶ。

- ・クレジットカードの仕組み（三者間契約）
- ・審査（発行や審査の仕組み、指定信用情報機関への登録）
- ・支払方法（翌月一括払い、ボーナス一括払い、分割払い、リボルビング払い）
- ・利用方法（実際の店頭での利用方法、年会費）

さらに、ポイントや特典、海外での利用上の留意点、多重債務、キャッシュレス決済の利点と欠点などについても考えていく。

## 5. 2. 指導計画

|   | 題材                      | 学習内容   | 時数  |
|---|-------------------------|--|-----|
| 1 | クレジットカードについて            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現金払い以外の支払い方法の活用状況について、生徒それぞれの現状を話し合う。</li> <li>・三者間契約の概要について知る。</li> <li>・クレジットカードがどのように発行されるのかを知る。</li> <li>・クレジットカードの支払方法やそれぞれの支払方法のメリットを知る。</li> <li>・利用方法を知る。</li> </ul> | 1時間 |
| 2 | クレジットカードを利用するときの注意点について | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年会費やポイント・特典、海外での利用上の留意点、多重債務、キャッシング決済の利点と欠点などについて話し合う。</li> </ul>  | 1時間 |

## 6. まとめと考察

### 6. 1. 小・中・高等学校の学習

本研究では、中学校の消費者教育を中心に生徒の学習後の受け止め方を調査した。本校が学芸大学附属のため、小・中・高等学校の教育に一貫性をもたせるなどの連携ができる環境にあるため、同じねらいで成長段階を踏んだ学びができる。今回は、小学校では買い物に対する自主性や内容について基礎的な力を身につけ、主体的に考え工夫しようと学習している。その後、中学校で実際様々な契約に関わる収入支出の仕組みを学んで、生活に結び付けた。実際にはクレジットなどの契約は高校生になるまでできないが、クレジットなどの契約ができる年齢になる前に、クレジットなどのリスクを含めた契約の仕組みを理解できているとよい。そして高等学校では、中学校で学んだ内容をより詳しく、繰り返し学ぶことで学習を定着させ、その時の社会状況を踏まえて必要とされる契約の仕組みとリスク回避のスキルなどの情報を自ら積極的に収集する賢い消費者を育てる。

### 6. 2. 成果と課題

中学生でも、生活に必要なものを購入する機会はある。さらに、数年後には一人で生活することも考えられる。今までの授業では、今後、キャッシュレスの支払いが増えてくるといった程度の認識であった。しかし、キャッシュレス化の現状を考えると、消費者としてキャッシュレスについて学ばないわけにはいかない。キャッシュレスとリスク、ポイント還元など、多くの新しい情報を得る必要がある。さらに、クレジットカードからの自動チャージとそれに伴う口座開設、そして、振込手数料が高額化する中で、これをサービスとして月に何回出来るかなども情報として必要なであろう。

授業後のアンケート調査から、中学生は、生活に役立つ内容として、授業内容に興味を持ち、家族にも伝えたいと考えていた。今必要でなくても、今後のために知っておきたい内容だと考えたのである。そして家族に伝えるなど、今からできる知識の生活実践であり、授業の成果である。

今や若者はネットでの取引に抵抗がなく活用できているが、一方で、親世代では情報弱者が増えるであろう。高齢者となればさらに増えることは確実である。社会の流れが大きく変化するので、生徒たちには、家族をサポートできるような知識と力を身につけてほしい。それらのことを考えると、一層、消費者教育でのカリキュラムの追加が必要だと思われる。そのためにも、消費者教育として金融に関わる授業実践を続けていく。

### 6. 3. おわりに

消費者教育のキャッシュレスの動きは、想像ができないほど急速に変化していた。1年もしないうちに新たな生活視点の課題が生じ、今までにはない視点の授業の取り組みが必要になってくる。オリンピックに焦点を当てたキャッシュレスの動きが、消費税増税の動きとキャッシュレスの仕組みに関わる企業との利権競争が合わさり、より複雑な消費者生活が進んできている。高齢化が進んでいるにもかかわらず、高齢者ではついていけないほどのキャッシュレスの動きに、社会はこれからどのように対応していくのだろうか。今後は、高齢者への思い

やりとして、支払い現場で困っている高齢者を助けたり、温かい気持ちで静かに待ったりできるような若者の誠意に頼ることも、教育現場で視野に入れていかなければならないのではないだろうか。

そして、消費者教育が高齢化社会や税金等に関連することや、キャッシュレスとマイナンバー普及を関連させる事業がはじまっていることなど、実生活において金融教育の必要性が大きくなっていると感じるので、さらなる研究が必要である。教員は常に新しい情報を収集し、生活者の視点での家庭科教育が充実し、有意義なものとなるように取り組まなければならない。

#### 参考文献

大澤克美 「考えよう これからのくらしとお金」【改訂版】東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ 金融教育共同研究プロジェクト 2017

経済産業省ホームページ キャッシュレス・消費者還元事業

出典：<https://no-genkin.com/entry/cashless-syouthisyakangen-point/20190806>